

1月29日(土) 15:00~17:00

日時 1月29日(土) 15:00~17:00

場所 オンライン

主催 P4C in schools KANSAI-JAPAN

発表者 茅野克利 徳島県立高等学校教員

対象 学校関係者

参加費 無料

参加者 10名

発表内容

2年前にP4Cに出会う

それまでの問題意識、今後の展望など

高校の教室を「考える場」にすることができるか？

公立高校国語科の担当

どう考え、どう表現させるか？

生徒は高校を通り過ぎているのだけではないか？

卒業できればいい、合格できればいい

年間主題単元学習

一年を一つのテーマでつなぎ、考え続けること、それを表現すること

高校2年生で実施

2008年、私たちが立っている場所。夏目漱石の「こころ」を題材。与えられた問いをもとに資料を作ったり、自分の考え、発表

2月にレポート。追いこむようなテーマでは書けない子もいた。

2014年 「フツーって何？」

書けるサポートをすれば、書ける。ただし、類型化してしまう。面白くない。付度でないものを書かせるためにはどうすればいいか。

そこで、大学院に入る。

岡山の講演で松川さんに会う。

岡山の哲学ウォークに参加。

自分が考えたかったのは哲学的問いではなかったのか。

「自由に、皆で」考える

違いに触発され、自分について考えられる。

こういう状況で、コロナになって、オンラインで対話参加。

松川さんの「思考の交差点ワーク」

ブルニフィエの『てつがく絵本』の選択肢「自由ってなに？」

選択肢を選ぶことが、考える手段になることに衝撃を受ける

ほぼ全員が時間内に書き上げた

選択肢を選んだ理由を書かせる。表現に多様性が出た

現在 高校1年

哲学対話は1回 なぜツブロックはいけないのか

クラスから出された問いは80超

現在の取組みは困難

HR活動の時間が限られる

場所もやり難い

教科でもやり難い、横並び

放課後、希望者に対してやる。図書館で。(何で来ているのか。ニーズがあるんじゃないか。そういう場がないだけ

かしこいって何

「つまんないつまんない」を読む

国語で問いづくりの授業

質問ゲームからはじめて、短い文章から問いを作る

展望

問いがあれば考えられる

練習すれば問いは作れる

自分で立てた問いに答えるレポートへ

自分が捜してきた自分だけの作品をえらぶ

これから召したいのはサイレント・ダイアローグ

当たり前って何。

感想、聞きたいことなど

サイレント・ダイアローグとは具体的に？

小説を選んで、男が見つけた幸せって何、それは本当にしあわせ、少女にとって本当にしあわせだったのか、自分で幸せを決められるか。

三つの枠 A 立場、B の立場、AB を踏まえて自分の立場を書く。それぞれのワークシートに意見を書き、それを回収して、別の子に渡し、B の立場で書かせ、

生徒たちの反応は？

どのときについての？

哲学対話が初めての時

哲学対話が好き、問いを作ってやってみたい、33 名が円を作れないので、円の中に入りたいた子だけでなく、誰もいないなら入ってもいいよ、という子を入りに入れる

人形を使った。意見が出始めると気持ちがほぐれて、入らなかった子も入りたいたという雰囲気になる。反応はよかった。

なぜ反応はよかったのか。

書いてない子も含めて、よく考えている子が多かった

一言も発言していないけど、対話を楽しむことがどれくらい可能なのか。

一言も話さない子がいる

一人賢い子は聞くのが好き。聴き取ってよく考えている。問いに対して独自の意見を出している

分からない、ということと言える教室の雰囲気が大切

考えていないのではない、今言えないのでだまっているだけ。

感想

僕が高校生だったら、茅野さんの授業を受けたかった。田舎には何もない。外に出るには受験しかない。進学して県外に出る。高校の先生もそう。授業は受験だ。受験のための授業。自分の物差しはこれしかなかった。現場の工業高校の教師も偏差値を挙げることを考えている。進学のイメージは強くなっているのではないか。

P4C で、生き方を考え直すきっかけになるのではないか。

授業の見方が変わった。

評価の問題がある。

アンケートの結果

ありがとうございました。高校生も哲学対話を求めているんだなぁと改めて、教室を自由に考える場にするのは大切だと感じました。松川えりさんの思考の交差点ワークも読んでみたいと思いました。

実践を重ねられた先生方のノウハウを直接お伺いでき、気づきや学びの多い時間となりました。茅野先生の図書館での哲学対話の実践をうかがい、本校での探究（3年生）開講年度までに私たち教員の研修・対話の場づくりをかねて、私も取り組んでみようかと思いました。

あつという間の集まりで、学ぶことがたくさんで、夢中になってメモを取らせていただきました。高校での具体的なご実践（授業・HR・放課後）や小学校でのご実践（生徒達の具体的なやり取りの様子！）を伺い、ワクワクしました。「哲学対話は一言も発言しない人も楽しめるのか？」についてみんなで考えたのも印象的でした。哲学対話の実践なさっている教室で私も児童・生徒として学んでみたかなあ、とつくづく思いました。冒頭で茅野先生が少しおっしゃっていたように、哲学対話の時間には、みんなで哲学的な問いについて、自由に、でも安心して、考えられて、違いに触発されて、自分自身について考えることができるからなんだろうなあ、と思いました。一番最後の「評価」については、もし、授業でやるとなったら避けられないことなので、ワークシートを使ったやり方は大変参考になりました。ホームページから拝見させていただきます。私は「評価」のことまでまだ考えが至っていませんでした。また、ファシリテーション（進行）やチャットボックスの使い方などもいいな〜と思い、こうやってやるんだ〜と学びになりました。といっても、まだまだ哲学対話初心者で、よくわかっていないことばかりなのですが、この「あつたかくて自由な場」が、学校や社会で広がったらいいな、と思い、今後も勉強していきたいです。